

2024 年 第 1 回 VLBI 懇談会 資料

作成: 2024 年 1 月 12 日(金) 佐野栄俊 (岐阜大学)

1. 本会の開催日時 2024 年 1 月 12 日(金) 16:00-

2. 開催形式 Zoom によるオンライン開催

<https://us02web.zoom.us/j/88361407020?pwd=NGc2Z2JrRm1LTkMyall5VWRZZEwzdz09>

ミーティング ID: 883 6140 7020

パスコード: 647491

3. 参加者確認

出席:

欠席:

(小林, 佐野, 今井, 岳藤, 赤堀, 小山, 藤澤, 関戸, 青山, 米倉, 中川, 三澤, 新沼, 寺家, 本田, 土居, 小川, 大木)

4. 議題

(ア) 国立天文台台外委員候補者推薦について

国立天文台運営会議の次期台外委員について、国立天文台長より候補者推薦依頼があった(2024 年 1 月 31 日締め切り)。次期台外委員の任期は 2024 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日の 2 年間。運営会議は研究教育職員の人事等、国立天文台の運営に関する重要事項について、国立天文台長の諮問に応じることなどを役割とする。

VLBI 懇談会会員へ、2023 年 12 月 31 日(日)18 時(JST)を締め切りとして推薦者を募った。教授職(教授職相当)以上を被推薦者とし、ジェンダーバランスも考慮する旨、並びに複数名の推薦も可であることを伝えた。参考情報として、国立天文台運営会議委員 第 10 期(任期: 2022 年 4 月 1 日~2024 年 3 月 31 日)のメンバー(<https://www.nao.ac.jp/about-naoj/organization/info.html>)と、以前のメンバー構成(運営会議議事録, <https://www.nao.ac.jp/recommend/governing-board/>)についてのアナウンスも実施した。

結果として、次項、4 名の会員の方から 4 名方を推薦いただいた。

萩原喜昭さんより

【被推薦者】

今井裕（鹿児島大学，教授）

久野成夫（筑波大学，教授）

【推薦理由】

今井さんの推薦理由

- ・ 野辺山 45m 望遠鏡の VLBI バックエンド開発では科研費を継続的に獲得して、野辺山のスタッフらと協調して作業を進めており、共同利用機関として天文台が改善すべき点や斟酌すべき内情を知っていると思われる。
- ・ VLBI の研究を通じて、国際的な天文学コミュニティとの積極的なコラボレーションを進めてきた。その結果、アジアを始めとして国内外の研究者とのネットワークを広げ、国立天文台と海外コミュニティとの連携を強化しているといえる。
- ・ 鹿児島大学での教育・指導にも熱心に取り組んでおり、若手研究者の育成にも貢献してきた。これは将来の天文学者の育成にも寄与するものであり、共同利用機関の国立天文台が果たすべき役割としても注目されるべき実績である。この教育実績は、天文台の運営においても生かされるべきである。
- ・ 今井裕さんの専門知識、天文台とのコラボレーションの経験、海外グループとの豊富な研究実績は、国立天文台の運営委員会において特に人事選考におきまして、今後非常に有益であると考えています。また、大学研究者の要望を広く代弁することも期待されます。

久野さんの推薦理由

- ・ 野辺山宇宙電波観測所の所長として天文台に長く勤め、転出後は大学の研究者として、学生に教育・指導に熱心に取り組んでおり、若手研究者の育成にも貢献している。教育・研究の両面において天文台の運営にアドバイス出来る人材であるといえる。
- ・ 野辺山 45m 鏡の科学成果導出に大きな成果をあげた研究者の 1 人である。天文台の内情を知る研究者としての観点から、天文台の運営や人事に対して適切な意見を進言できる人材であると確信している。

小林秀行さんより

【被推薦者】
新沼浩太郎（山口大学，教授）
米倉覚則（茨城大学，教授）
【推薦理由】

米倉覚則さんより

【被推薦者】
今井裕（鹿児島大学，教授）
新沼浩太郎（山口大学，教授）
【推薦理由】

- ・ 前期の藤澤さん、今期の米倉よりも若手であること。
- ・ VLBI の将来計画の議論に深く関わっていること。
- ・ （地方大学の教授であること）。

藤澤健太さんより

【被推薦者】
米倉覚則（茨城大学，教授）
【推薦理由】

- ・ 現在、運営会議の委員を務められている。運営会議委員は、通常は2期連続する傾向があり、米倉さんは1期目であるので、もう1期、担当していただくのは適切である。
- ・ 学識と経験が豊かな教授であり、国立天文台の運営会議委員として適任である。
- ・ VLBI の研究グループ全体として推薦するのにふさわしい人物である。

(イ) 解析教材 WG の発足について（赤堀さん）

別紙：解析教材 WG の発足について.pdf を参照ください。

5. 報告

6. その他

以上

解析教材 WG の発足について

赤堀卓也

2024 年 1 月 12 日(金)

1. 経緯

2023 年度 VLBI 懇談会シンポジウムにおいて、VLBI 研究に携わるユーザーの拡大について議論が行われた。その中で、データ解析の難しさがユーザー拡大の障害となっているという指摘があった。これは以前から指摘されてきたことである。その対応策として、解析の教材やそれを用いたチュートリアルが有効であるとの声があった。実際、過去に数多くの解析教材が開発され、いくつか著名なものもあれば、研究室レベルあるいは個人レベルのものまである。しかしながら、それらは VLBI 懇談会として管理されているものではなく、残念ながら更新の途絶えたものや存在が不明になったもの、そもそも存在するという情報が共有されていないものもある。

私は、当会の持続的な発展のためには、新規のユーザー獲得とサポートを組織的に取り組むべきと考える。そのためには VLBI データの解析を体系的に理解することのできる教材を VLBI 懇談会として製作、あるいは監修し、有益な情報を含む媒体を組織的に管理して、未来に渡って共有することが有効であると考えに至った。

2. 提案

以上の経緯を踏まえて、VLBI 懇談会として解析教材を整備することを目的とした、作業部会(WG)の発足を VLBI 懇談会役員会の中に設置することを提案する。WG は、まず過去に開発された、教材として有効な媒体の収集作業を行い、できるだけ速やかにそれを当会会員に共有する。次に、会員からの意見も踏まえて、収集した媒体を活用しながら、体系的な教材を開発し、広く一般に公開する。WG はこれらの作業に責任を負うが、実作業においては広く会員の協力を仰ぐものとする。整備後の更新のあり方については別途役員会などで定めることとし、本 WG は解析教材の公開をもって一旦解散する。

3. スケジュール

2024 年 1 月	解析教材 WG の発足についての役員会承認
2024 年 3 月末	解析教材 WG のメンバーの決定および WG の発足
2024 年 4-6 月	解析教材の収集の開始（内容精査は最低限に留める）
2024 年 6 月末	収集した教材の限定公開（VLBI 懇談会内部限定）
2024 年 7-11 月	収集した教材を踏まえ、教材のあり方(例：章立てや内容)を検討
2024 年 12 月	VLBI 懇談会シンポジウムでの意見聴取とあり方への反映
2025 年 1-5 月	教材の開発
2025 年 6 月頃	中間報告
2025 年 11 月	最終報告
2025 年 12 月	VLBI 懇談会シンポジウムでお披露目、保守の事務引き継ぎ、WG 解散

以上